

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1270400912
法人名	有限会社 サクララン
事業所名	ひよりの里
所在地	千葉県千葉市若葉区小倉町875 - 9 (電話) 043 - 234-8778

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4 - 4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年6月11日	評価確定日	7月28日

【情報提供票より】(2008年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 15人	非常勤5人 常勤換算5人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000円	その他	食費52,500円,水道光熱費15,000円, おむつ代 理美容代実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)		有りの場合 償却の有無	有(期間:30ヶ月にて 均等償却)
食材料費	朝食	420 円	昼食	550 円
	夕食	600 円	おやつ	180 円
	または1日当たり 1,750 円			

(4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	78 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉中央病院・小倉台クリニック・学園前歯科クリニック
---------	---------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

千葉都市モノレール千城台北駅より徒歩10分、2階建て2ユニットのホームである。住宅街にありながら、ホームの周りは菜園が広くあり、のどかさの残る好立地だ。協力医療機関が隣接しており、医療面における対応は早い。ホーム中央にはアットホームな雰囲気のリビングダイニングとオープンキッチンがあり、入居者と職員が自然に会話できるような設計になっている。中庭にはプランターで草花を飾り、芝生では日向ぼっこを楽しめるほどの広さがあり、天気の良い日には2ユニット合同でバーベキューを楽しむこともある。入居者の手作りの製作物を飾ったり、洗面台に季節の花を生け、季節感のある穏やかな雰囲気をかもし出すホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善課題に対する取り組みは、運営者と管理者が中心に取り組んでおり、全職員に周知徹底するには至っていない。今後は改善課題を全職員と話し合い、課題を明文化することが望まれる。職員全員参加型の組織運営で具体的に取り組むことが相乗効果を生み、ケアの質を高めることになると考えられる。そして、このプロセスは職員同士の意思疎通をも促すと思われる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は一部の人のみで行うのではなく、入居者にもっとも多く接し、ケアの現実を知る現場従業者全員で行うことが求められる。管理者は、全職員からの意見聴取を含めた外部評価受審計画を立て、全員参加で取り組むことが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2カ月に1回の実施が推奨されているが、参加者が集まらず実施されていない。運営推進会議のあり方を職員と共に考え、年間計画に基づく各会議の開催目的を明確化し、参加者へ事前に周知することで、参加意欲が高められると思われる。参加者の役割や、ホームが地域に協力してほしいことなどを話し合い、具現化していくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には定期的に便りを送り、何でも言って貰える雰囲気づくりを心がけている。できた意見や要望は直ぐにスタッフ会議で検討し、できる限りホームの運営に反映させるように努力している。入居者・家族・職員間の馴染みの関係が大きな意味をもつグループホームでは、家族が職員の離職に不安をもつことが多くみられるので、その対応方法を構築することが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームの周りには菜園があり、そこで農作業する人とは自然な交流ができています。収穫物を頂くこともある。毎日の散歩でも、道ですれちがう近所の方との挨拶は欠かさないようにしている。今後は、地域との連携、自治会参加、近所づきあいなどを通して地域との交流をより深めていき、近所の方がホームに気軽に立ち寄ってくれる関係になりたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者が開設時にホーム独自の理念をつくりあげている。理念は「入居者の健康と安全に配慮し、自分の感情が豊かに出せるその人らしい暮らしを支援します。」である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関からリビングへ行く途中の目立つところに理念を掲示している。職員が理念の理解とその実践を日々のケアの中に取り入れられるように、ユニット会議やスタッフ会議などで確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺は菜園で、農作業する人と自然な交流ができています。時には収穫されたものを頂いたりもする。毎日の散歩でも、道ですれちがう人には挨拶を欠かさないようにしている。交流のある地域の自治会に参加したいが、ホームは地区が異なるため加入できないと言われている。		ホームが入りたい自治会には地区が異なる関係で加入できないが、老人会、地域活動へ積極的に参加することで、交流は十分深まると思われる。災害時の地域協力について話し合っておくことも必要と思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者が中心に自己評価を行っている。グループホームの外部評価の結果を、常勤、非常勤を問わず、職員全員に周知し、また入居者のご家族や地域関係者にその結果を、運営推進会議等で報告するまでには至っていない。		外部評価は全職員参加が進めることが原則である。自己評価は職員一人ひとりの意見を反映し、また改善項目には明確な優先順位をつけて、具体的に全職員で改善に取り組むことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域住民や行政担当者の参加が得られず、まだ一度も開催されていない。推奨されている2ヶ月に1回の実施は困難だと感じている。		ホームが目指している運営推進会議のあり方を職員と共に考え、年間計画に基づく会議の目的を参加メンバーに伝えることで、会議を効果的に開催できると思われる。まずは計画的に年数回の運営推進会議を開催し、外部評価への取り組みやホームの状況報告なども併せて行うことで、その他関連評価項目との相乗効果が期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が市町村の担当者と情報交換を密に行い、連携はできている。今後は更に、市町村との連携を深めて地域にあった“サービスの質”を高める取り組みを行っていきたく考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者が家族に電話等で、個々の生活状況や健康状態を報告している。外出、イベント、行事などについて写真を掲載したホーム便り「ひより」の送付も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回実施し、家族の代表から率直な意見を聞いて、ホームの運営に反映させるよう努めている。また、家族の来訪時等にも職員が話しかけ、何でも言って貰える雰囲気をつくっている。家族会の議事録や意見、要望とその対応内容の記録を今後残していこうと考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、「職員の安定が介護の質の向上に繋がる。」と考え、常勤社員の割合を増やし、福利厚生を充実させ定着率を高める努力をしている。新しい職員は採用時に研修を行い業務に慣れてからシフトに入れるようにしているが充分ではない。職員の離職は入居者及び家族に報告するようにしている。		職員の離職は、急に入替わるのではなく、辞める職員と新しい職員が引継ぎをしながら並行して勤務するなど、入居者への影響を軽減する工夫が必要と思われる。家族は職員が変わることに不安感をもつ場合があるため、報告の際の配慮が必要と思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県からの研修案内等の情報は常に提供し、外部研修に積極的に参加してもらえるように推奨している。新しい職員はOJTで1か月ほどの研修を行っている。しかし、職員の経験や知識に応じた研修を、計画的に実施できる状況にはない。今後は計画的に研修を実施していきたいと考えている。		計画的に段階に応じた研修を実施するには、各職員の技量を把握し、個別に求められる知識・スキルを抽出して法人内外の研修やOJTを実施すると効果が表れる。人材育成時には、対象職員が目的を理解してトレーニングを受けるという自覚が必要である。トレーニングを受ける職員と教える職員が目的を共有する仕組みの構築が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入っているが、同業者交流の機会が身近になく、管理者や職員が同業者との交流の機会を持つことができていない。また、職員がグループホームの相互訪問等を通じて、サービスの質を向上させる取り組みを持つ状況に至っていない。		同業者との交流はサービスの質の向上、人材育成、情報交換、組織運営の透明性の側面からも重要である。グループホーム連絡会に参加するなど、同業者とのネットワークを拡げ、情報交換を行いケアの質の向上及びマネジメント力向上に役立てることも大切と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を家族とともに1週間程度してもらい、時間をかけてホームに溶け込むようにしている。入居者本人の気持ちを確認しながら、安心してサービスの利用を開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の希望を尊重し、入居者自身で行えることは、職員は見守りに徹している。自然な形で一緒に生活を楽しみ、教え教えられている雰囲気を大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントは入居時に行っている。職員は入居者の既往歴、本人とその家族がこれからどんな生活をしていきたいのかなどを聞き取りしている。		思いや意向の把握に努めているが、定期的に面談やアンケートを実施するなど、入居以降もさらに詳しく掘り下げて聞いていくことで、より具体的なケアや生活の援助につながっていくことと思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は介護計画を作成するに当たり、日頃から入居者やケアに当たる職員の意見を吸い上げ、それをユニット会議などで話し合い、計画書に反映している。		家族からも意見を引き出す仕組みを整える必要があると思われる。また職員の意見を文書化しておくことで、より充実した介護計画に近づけるのではないだろうか。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに目標に対するモニタリングをする他、入居者の体調等の変化があれば随時、ユニット会議で話し合い、計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
尽き					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別での通院を支援するなど、現在できる範囲で事業所の機能を生かしながら入居者本人やその家族の要望に応じて支援をしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に隣接しているので利便性がいいのに加え、本人や家族の意向による個別のかかりつけ医への受診にも対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル期をホームで迎えることに対して、その体制を整えるべく積極的に取り組む方針を打ち出している。		医療体制の整備などこれから取り組むべき課題は多いが、まずはターミナルケアについての方針を職員間で共有するべく、研修や会議の機会を作っていくことが望まれる。
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等個人情報の管理を徹底しており、入居者の部屋への出入りの時は声かけを行い、私物の管理などについても入居者の意向を確認しながらそれに沿う形で実践している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、睡眠はもとより、外出したい時、居室でのんびり過ごしたい時に、ホーム側の決まりや職員の都合ではなく、できる限り入居者の意向やリズムを尊重しながらの支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは提携の栄養士が作るが、週に1回は入居者の希望を取り入れたメニューを提供していたり、外食を月に1回程度行ったりしている。食器も個人の持ち物を使っており、職員との会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には毎日の入浴を提供するとともに、時間帯や頻度も入居者の要望に添う形で入浴できるよう支援している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出を希望する入居者には頻繁に外出の機会を提供するとともに、外出を希望しない入居者にも室内で折り紙や絵画などの活動を豊富に提供している。入居者に喜んでもらうために職員によるレクリエーションや体操にも取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	都市部にあって畑に囲まれているという立地から、天気の良い日にはよく散歩に行っている。また車を使っての近所のドライブや、月に1回程度の遠出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来鍵をかけないケアの実践に取り組んできており、居室の鍵も希望者は自分で所持している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	0		災害の状況を様々に想定しながらの訓練を行うことが望まれる。特に人手が薄くなる夜間を想定しての訓練を行うことにより、職員や近所の方が協力しながらの避難誘導や初期消火で災害に備えることができると思われる。震災、台風など火災以外の対策も検討が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養と水分の摂取量を記録にとって、看護師と相談しながらその量を点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレ、浴室を清潔に保ち、生活空間に花や観葉植物を置いたり、入居者の描いた絵や製作物が展示されるなど季節感が感じられる共用空間作りをしている。畑に面した芝生の中庭も居心地のよい生活環境に寄与している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビを含め、入居者が使い慣れた家具などを持ち込むことができ、ベットか布団かも本人の意向により選択できる。		